

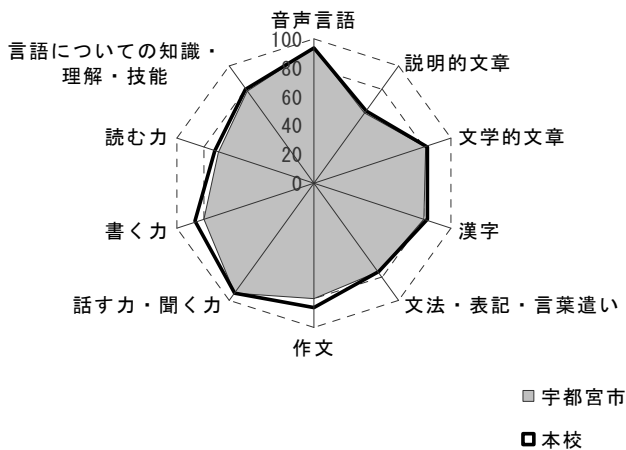
3 学年国語

1 結果

(1) 領域別・観点別平均正答率（宇都宮市と本校の状況）

■平均正答率

		宇都宮市	本校
領域別	音声言語	93.3	94.5
	説明的文章	82.2	84.3
	文学的文章	85.8	88.6
	漢字	74.9	76.8
	文法・表記・言葉遣い	82.6	82.8
	作文	68.9	68.6
観点別	話す力・聞く力	93.3	94.5
	書く力	68.9	68.6
	読む力	84.0	86.5
	言語についての知識・理解・技能	77.5	78.8

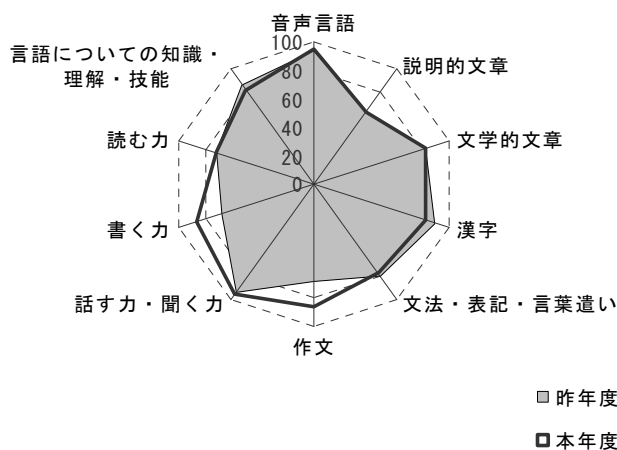


受検人数	宇都宮市	本校
	3783 人	208 人

(2) 領域別・観点別平均正答率（平成18年度と平成17年度の状況）

■平均正答率

		本年度	昨年度
領域別	音声言語	94.4	93.8
	説明的文章	62.9	62.1
	文学的文章	82.2	81.8
	漢字	82.4	88.0
	文法・表記・言葉遣い	76.8	80.3
	作文	86.7	68.8
観点別	話す力・聞く力	94.4	93.8
	書く力	86.7	68.8
	読む力	72.5	71.9
	言語についての知識・理解・技能	80.5	85.5



受検人数	本年度	昨年度
	208 人	227 人

※平均正答率の状況から、今後指導の重点を置くべき領域や観点を明らかにし、指導の工夫・改善を図っていきます。

2 指導の工夫・改善

領域	昨年度の状況と本年度の傾向	今後の指導の重点
音 声 言 語 (94.4%)	・昨年度同様、平均正答率が90%を超えており、確実な学力が身につけているといえる。	・今後も目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を身に付けさせるとともに、話し言葉を豊かにしようとする態度を育てていきたい。
説 明 的 文 章 (62.9%)	・昨年度の平均正答率を上回ってはいるものの、6つの領域中、一番平均正答率が劣っている分野である。年度が変わってもこの傾向は変わらず、今後の本校国語科教育における最重要課題と考える。	・読むことの能力を育成するため、文学作品における表現の仕方や文章の特徴に注意して読む力を育てて生きたい。 ・朝の読書が充実した時間となり、読書が生活の一部となるよう指導していきたい。
文 学 的 文 章 (82.2%)	・昨年度同様、平均正答率が80%を超えており、おおむね良好な結果が得られているといえる。	・読むことの能力をさらに高めるため、書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえるとともに、内容の理解や自分の表現に役立てる力を育てていきたい。
漢 字 (82.4%)	・昨年度同様、平均正答率が80%を超えており、おおむね良好な結果が得られているといえが、平均正答率が昨年度より5.6ポイント低下している。	・第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むことができるよう指導していきたい。 ・学年別漢字配当表に示されている漢字を文や文章の中で正しく使えるよう指導していきたい。
文 法 ・ 表 記 言 語 遣 い (76.8%)	・昨年度は80%を超えていたが、本年度は平均正答率が昨年度より3.6ポイント低下しており、平均正答率が80%を下回ってしまった。	・国語の授業におけるさまざまな場面で、慣用句、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句の意味や用法に注意するよう指導していった。 ・抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙が豊かな生徒を育てて生きたい。
作 文 (86.7%)	・本年度は平均正答率が80%を超え、昨年度の平均正答率を17.9ポイント上回っており、おおむね良好な結果が得られたといえる。	・書くことの能力をさらに育成するため、広い範囲から課題を見つけ、必要な材料を集めるとともに、自分の立場や伝えたいことを明確に表現する力を育てていきたい。